

- 1 単元 アイヌ語に親しもう
- 2 単元目標 体験活動を通して、地域の良さを知るとともに、地域の人々とのかかわりから、望ましい人間関係を作る力を育てる。
- 3 目指す子どもの姿
  - ① 日常生活や社会に向け、体験などをもとに自分で課題を設定することができる子
  - ② 意欲をもって課題を追求し続け、自分の意見を深め、よりよく表現できる子
  - ③ 他者のよさを発見したり、自分の成長を自覚し、自分の生き方を考えたりできる子
- 4 本時の目標
  - 3・4年生 主体的に体験活動に参加し、アイヌ語を学ぶことができる。
  - 5・6年生 主体的な学びを通して、コミュニケーションを図ることができる。
- 5 本時の展開

	児童の活動	講師○・教師●の活動	留意点・評価
つかむ	○あいさつ 縦割り班班長（4班） ○アイヌ語の歌を歌う。 ○講師の方のお話を聞く。  ○今日の活動を知る	○アイヌ語の歌～いつもの3曲を歌う ○前時の振り返り  ○味を表す言葉を学習することを伝える。	・歌詞の用意
考える	○講師の方のお話を聞く。  ○講師の言い方をよく聞いてまねをする。  ○食べ物カードを見て、味を表す言葉を言う練習をする。	○味を表す言い方～5種類 ①ニウロッケ～すっぱい ②トペン～あまい ③ルンヌ～しょっぱい ④シウ ～にがい ⑤パラカラ～からい ＊ケラ アン～おいしい ※食べ物カード～味を想像させる	・カードの準備  [評価] 活動を通して、アイヌ語に興味・関心をもつことができる。
深める	○学習した言葉を練習 ＊全員で声を出す ＊習熟を図る	●ゲーム①～班ごとにカードで神経衰弱 ＊めくったカードを全員で声に出して読む。 ●ゲーム②～どんな味がするかな ＊低学年運命走と同様のルール（班ごと） 他の班員が味の言葉を大声で言う。	＊マオリの方も各班に入ってもらおう。  カードを持つ教員5人
まとめ	○感想発表  ○あいさつ たてわり班班長	●学習の振り返りをさせ、児童が発表する機会やお互いの学びを共有する場を設ける。	

- 6 自己評価
  - ① アイヌ語のスキルを高めるのではなく、アイヌ語に興味・関心をもつ
  - ② アイヌ語を学習することで、アイヌ文化に対する自身の考えを深める。
- 7 役割分担  
 講師：           メインT：       サブT：           記録(写真)：